



彩の国
埼玉県



平成30年度

業 務 報 告

埼玉県秩父高原牧場
彩の国ふれあい牧場

牧場内の略図

牧場基地・施設配置図

第1章 総 説

1	沿 革	1
2	位置及び交通	2
3	地勢及び地質	2
4	気 象	2
5	土地の概要	2
6	用地の使用区分	3
7	施設及び機械器具	3
8	機 構	5
9	歳入歳出の執行状況	6

第2章 家畜管理事業

1	概 要	7
2	家 畜 管 理	8
	(1) 家畜飼養頭数	8
	(2) 譲渡成績	8
	(3) 受託牛入牧状況	10
	(4) 発育成績	10
	(5) 繁殖成績	10
	(6) 衛生関係	12

第3章 草地管理事業

1	概 要	14
2	草地管理	14
	(1) 生産量	15
	(2) 施肥	15
3	草地更新及び飼料作物作付実績	16

第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況

1	概 要	17
2	ふれあい動物の管理	17
3	花にあふれる牧場づくり	17
4	モーモーハウスの入館者数	17
5	彩の国ふれあい牧場への入り込み客数	18
6	牛乳を利用した体験実習等実績	19
7	イベントの開催	19

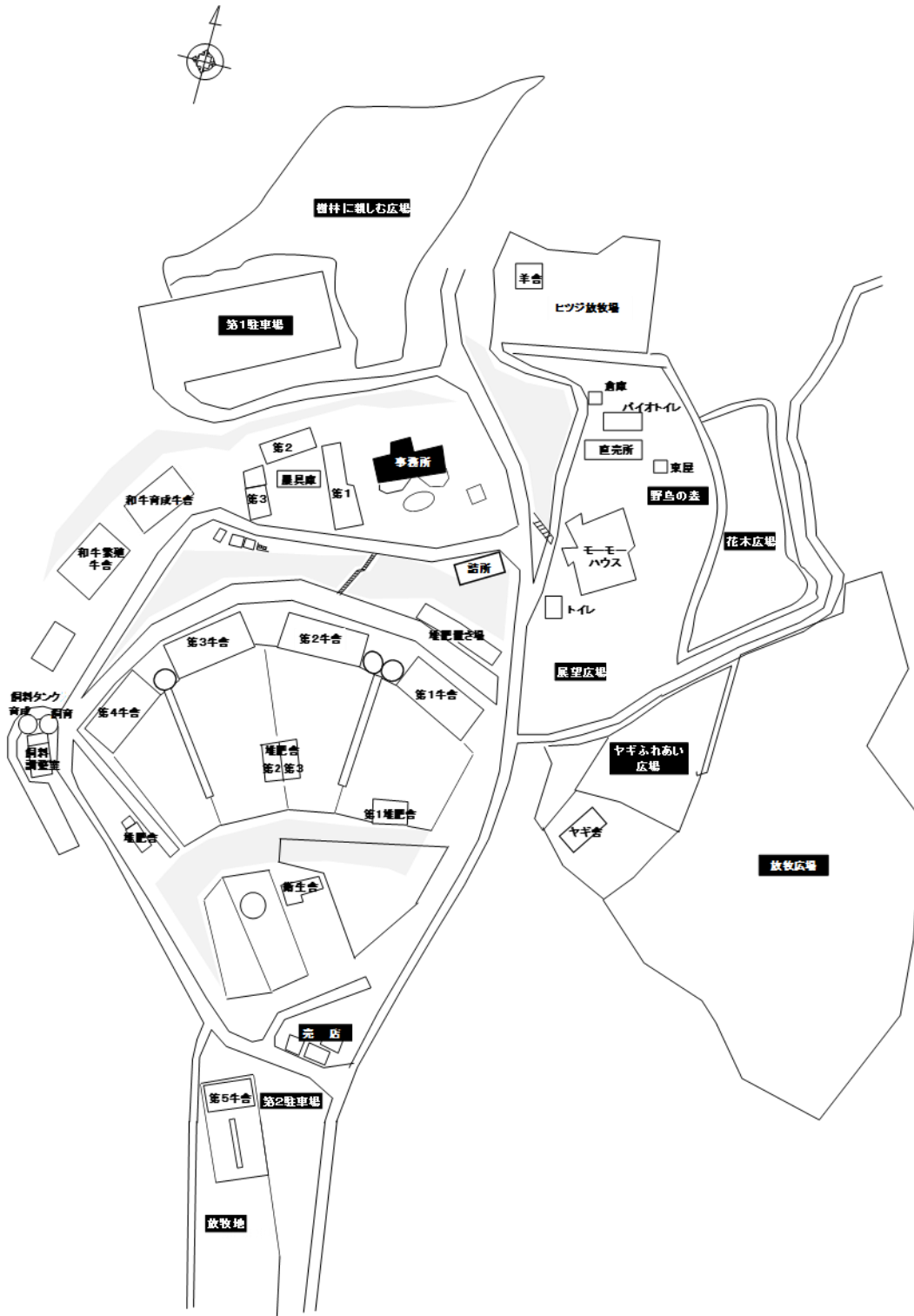
第5章 公共事業実施状況

1	概 要	20
2	実績及び計画	20

牧場内の略図



秩父高原牧場 平面図



第1章 総説

1 沿革

- 昭和38年度～42年度
県営牧場建設候補地として、秩父郡皆野町及び東秩父村にまたがる地域の他、小鹿野町吉田町、秩父市、大滝村等4地域について「草地開発基本調査」を実施。
- 昭和43年4月
調査結果から皆野町、東秩父村を予定地として選定し、両町村に説明、協力を要請し現在地決定
- 昭和43年11月
県は牧場建設の推進を図るため、皆野町旧三沢村役場庁舎に「二本木乳牛育成牧場準備事務所」を設置し調査、測量、設計、建設計画の作成、用地買収等を開始。
- 昭和43年度～44年度
共同利用模範牧場設置事業に基づく調査機関として農林省に協力し、牧場予定地480haの調査並びに「共同利用模範牧場設置計画」の作成。
- 昭和45年度～47年度
農地開発機械公団が農林省の委託を受けて開設、昭和46年度から県が管理運営を行う。
(1) 公団施行分 653,500千円(草地造成231.22ha、道路9,264.8m、畜舎、機械施設外)
(2) 県単施行分 681,515 (買収218.23ha、借地133.59ha)
(3) 道 路 160.208
計 1,495,223
- 昭和48年4月
施設竣工に伴い、名称を「埼玉県秩父高原牧場」に改称し、正式に牧場業務開始(4月11日開場式)
開場に伴い場長、次長、庶務、家畜、草地の三課20名の組織が確立された。
- 昭和49年2月
現庁舎(600㎡、77,189千円)が新築落成。
- 昭和52年度～57年度
公共育成牧場整備事業
総事業費 539,569千円
牧場の生産基盤を整備して、牧養力の向上を図るため「公共育成牧場整備事業」により、草地造成改良、道路整備改良、施設及び機械の整備強化を図った。
- 昭和63年度～平成元年度
公共育成牧場基盤整備事業
総事業費 90,735千円
第2回公共育成牧場基盤整備事業実施で、草地、道路の整備改良と、施設及び機械の整備強化を図ることにより牧養力の向上に努めた。
- 平成2年度～8年度
秩父高原牧場機能強化事業
優良な乳用・肉用後継牛の確保により、酪農及び肉用牛経営の安定化を図るため、牧場機能を充実した。
総事業費 605,707千円
- 平成5年度～8年度
彩の国ふれあい牧場施設整備事業
牧場の一部(7ha)を開放し、モーモーハウス、遊歩道、樹林に親しむ広場等を計画的に整備し、牧場の多面的機能を活用し、県民に憩いの場を提供した。
総事業費 390,028千円
埼玉県ふれあい牧場(条例施行 平成9年4月1日 開場 平成9年5月18日)

- 平成 9 年度～ 1 2 年度
 団体営公共牧場整備事業
 草地、牧道、牧柵を整備改良し、高品質な飼料の増産と作業の安全を図った。
 総事業費 163,898 千円
- 平成 2 0 年度～ 2 4 年度
 秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（自給飼料生産施設整備事業）
 牧草地、農業用機械、遊歩道等の整備を行い、高品質飼料の効率的生産及び施設の充実を図った。
 総事業費 82,583 千円
- 平成 2 3 年度～ 3 0 年度
 秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（牛舎等施設整備事業）
 老朽化した牛舎及びふれあい牧場の施設改修を行う。
 総事業費 210,276 千円
- 平成 2 6 年度～ 3 0 年度
 埼玉の肉牛を守り、育てる生産構造転換事業
 牛舎改修、機器等の整備を行い、和牛授精卵の採胚・受託牛等への移植、その子牛（2～4 日齢）の購入・譲渡（概 1 0 ヲ月齢）により、県内和牛生産の拡大を図る。
 総事業費 166,396 千円
- 平成 2 9 年度
 秩父高原牧場地域交流施設整備事業
 新たに県産農畜産物直売所や動物とのふれあいコーナーなどの地域交流施設を整備することで、本県の畜産に対する県民の理解をさらに深めるとともに、一層の地域振興を図る（地方創生拠点整備交付金を活用）。
 総事業費 99,509 千円

2 位置及び交通

牧場事務所及び施設等の所在地

埼玉県秩父郡東秩父村大字坂本 2 9 5 1 番地

交 通

- ◎ 秩父鉄道親鼻駅下車、西武バス三沢廻り、秩父行、病院前下車 徒歩 9 0 分
- ◎ 東武東上線、八高線小川町駅下車、イーグルバス白石車庫行、橋場下車 徒歩 9 0 分

3 地勢及び地質

牧場は、二本木峠から粥仁田峠を経て大霧山に至る 4.2km の稜線を東西 2.9km にまたがる地域で、表層土は秩父古生層系火山灰、通称関東ローム層と呼ばれる土壌と、一部には蛇紋岩の風化した土壌に覆われている。

4 気 象

標高 270m から 766m にわたる地域で、やや高冷地に属している。気温は平地に比べ 3～4 度低いうえ、霧の発生も比較的多いが、冬期の積雪量は少ない。

5 土地の概要

総面積 351.82ha（県有地 218.23ha、借地 133.59ha）
 内秩父郡皆野町分 223.34ha
 秩父郡東秩父村分 129.48ha

草地は、昭和45年から昭和47年に造成されたが、急傾斜地、石礫の多いことに加えて起伏が多く、不陸がさくそうしている。造成面積は次のとおりである。

1～2級地（傾斜度0°～15°）52.92ha 機械造成。3級A地（傾斜度16°～20°）49.71ha 機械と人力の併用造成。3級B地（傾斜度20°以上）128.56ha 人力造成。

6 用地の使用区分

(平成31年3月31日現在)

区 分	草 地		計	樹 林 地	そ の 他	
	採草地	放牧地 (野草地)			(基地) 道 路 等	合 計
管理面積	27.16ha	207.03ha	234.19ha	94.20ha	23.43ha	351.82ha

7 主な施設及び機械器具

○ 給水施設は、皆野町三沢川の支流、高府地川に揚水所を設け、高圧多段式ポンプ（実揚程289m）で山頂の貯水タンク（200m³）に送水。これを濾過殺菌して牧場全体に配水している。

(1) 施 設

(平成31年3月31日)

区 分	数量等	備 考
事 務 所	600.02 m ²	鉄筋コンクリート造 大屋根 2階モルタル仕上
監 視 舎	116.93 m ²	詰め所
畜 舎	3,829.03 m ²	育成牛舎 4・避難舎 5・肉用分娩牛舎 1・肉用育成牛舎 2
衛 生 舎	93.80 m ²	衛生舎・牛舎
農 具 庫	672.13 m ²	第1農具庫・第2農具庫・農機具収納庫・車庫 2
飼 料 庫	191.67 m ²	飼料庫 90 m ² ・粗飼料庫 101.67 m ²
給 餌 舎	147.8 m ²	2棟
汚水処理施設	一 式	原水槽 252 m ² ・曝気槽 308 m ² ・調整槽 696 m ² ・中継槽 353 m ²
燃 料 庫	12.15 m ²	
給 油 所	一 式	ガソリン 1,000 ㍓・軽油 2,000 ㍓
サ イ ロ	7 基	タワー 内径 5m 高さ 12m 3基(休止) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 16m 1基(2槽式) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 10m 1基 バンカー 巾 4.0m×高さ 3m×長さ 11.25m 2基
給 水 施 設	一 式	高圧多段揚水ポンプ 2基・給水タンク 200t 1基・配水管延長 12,900m
トラックスケール	一 式	ハートロックス式 30t 計量 3×8m
隔 障 物	87,402 m	牧柵
道 路	12,516 m	幹線道路 5,443m・管理道路 7,073m
駐 車 場	2,651.00 m ²	1か所 89台収容

トイレ	17.16 m ²	1 棟
遊歩道	804 m	
木 柵	2,582 m	3、5 段張り(杉材)
多目的広場	5,000.00 m ²	
モーターハウス	599.02 m ²	木造一部鉄骨フッ素樹脂鋼板(事務室、展示室、研修室、実習室)
動物飼育舎	66.24 m ²	非木造
浄水施設	一 式	急速砂層濾過装置 1 基・貯水槽 23t・膜濾過装置 (飲用)
第 1 堆肥舎	103.68 m ²	
第 2、第 3 堆肥舎	207.36 m ²	
堆肥舎	50.00 m ²	
羊舎	68.00 m ²	
倉庫	11.05 m ²	
直売所	39.74 m ²	
バイオトイレ	9.93 m ²	

(2) 主な機械器具

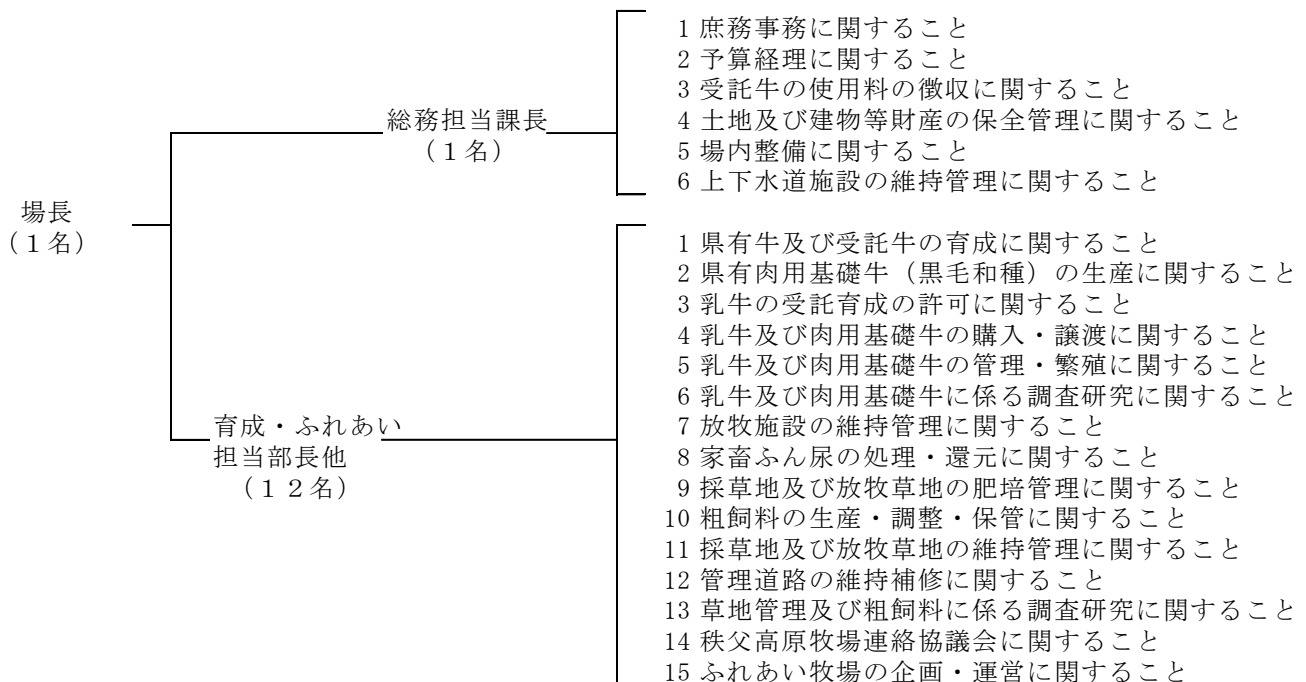
(平成 31 年 3 月 31 日現在)

品 名	数量	規 格	用 途
ライトバン	1	キャラバンソコ TD27	全般
ダンプカー	3	日野 FX2AB、日産 デイゼール MF211、三菱 ミニキャブ	全般
トラクター	6	マッセファーガソン MF290、フォート 4100 (2台) 、7840、8210、ニューホラント T6-175、	全般
クローラ型トラクター	1	小松 D20	整地・造成
ショベルローダー	2	ホブキャットローダー 1 台、スーパーホブローダー 1 台	牛ふん搬出
ホイールローダー	1	三菱 WS500A11	全般
バックホー	1	三菱 WS500A11 アタッチ	掘削
牛衡機	2	IRPD2000、E・2000s	牛の体重測定
給水ポンプエンジン	1	富士重工製	給水
ラウンドベラー	1	ニューホラント 120×140 モデル 848	牧草の収穫
ラッピングマシーン	1	NR 3 0 1	牧草の収穫
簡易更新機	1	ニプロ PRN 8 0 1	草地の簡易更新
マニアスプレッダ	1	m f 1 9 - 1 3 0 B	堆肥散布
ユニック	1	日野 2.7t セルフクレーン	重量物の積降し・輸送
小型トラック	1	キャンター	全般
普通乗用自動車	3	三菱 パジェロ、ホンダ CRV、三菱 デリカ	家畜管理
ソフトサーバー	1	日世(株)製	アイスクリーム製造
ベールラッパー	1	TWM 1 6 1 0 (株) I H I スター	牧草の収穫

カッティングロールペーラー	1	B R 7 0 6 0 ニューホランド	牧草の収穫
モア コンディショナー	1	F C 3 0 3 G C	牧草の収穫
ハンマーナイフモア	1	S H 1 5 5 0 A	雑灌木の刈り払い
テッダー	1	クーンHFT502	牧草の収穫
ディスクモア	1	クーンHFT500	牧草の収穫
超音波画像診断装置	1	富士平HS-101VN	妊娠鑑定
ガス滅菌機	1	ES0-S-3A	器具殺菌
プログラムフリーザー	1	富士平ペルチェETフリーザー	受精卵保存

8 機 構

(1) 組織と業務内容（平成 31 年 3 月 31 日現在）



(2) 職 員 名 簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

総務	場 長 (技)	宇田川浩一	育成・ふれあい	担当課長 (技)	油井 武
	担当課長 (事)	逸見英雄		担当課長 (技)	安里 誠
	主任 (技)			主任 (技)	矢野 寛
育成・ふれあい	担当部長	亀田光澄		主任 (技)	杉山 豊
				主任 (技)	野澤智浩
				主任専門員 (技)	吉羽宣明
				技師	齊藤史門
				技師	松本祐治
				技師	秋山義侑
				嘱託 (非常勤)	中嶋城治 新井清一

9 歳入歳出の執行状況

(1) 歳入

区 分	金額(千円)	備 考
行政財産使用料	259	電柱等敷地料外
畜産業使用料	31,885	受託牛育成料
畜産業手数料	675	人工授精料外
土地建物貸付収入	48	農産物直売所等用地貸付料
生産物及び物品売払収入	9,312	育成牛譲渡代外
雑入	340	農産物直売所水道料外
県債	8,000	基盤整備事業債
一般財源	19,592	
歳入合計	70,111	

(2) 歳出

区 分	金額(千円)	備 考
報酬	10,863	非常勤職員給料
共済費	803	非常勤職員社会保険料
旅費	876	
需用費	34,083	飼料費、修繕費、燃料費外
役務費	2,915	通信運搬費、手数料外
委託料	1,825	浄化槽点検、産廃処理外
使用料及び賃借料	4,441	牧場用地借上料外
原材料費	47	モルタル代
備品購入費	8588	飼料運搬用ダンプカー外
負担金	67	地域交流牧場会費外
補償補填	315	委託育成牛事故補償
公課費	290	公用車車検
歳出合計	65,113	

第2章 家畜管理事業

1 概要

県内の酪農家から乳用雌牛（生後6～12か月齢）を受託し、育成と人工授精、胚移植を行い、酪農家の経営の基礎となる優良後継牛の供給を行っている。

育成管理は、4月から10月の放牧飼育、11月から3月の舎飼飼育に大別される。

平成元年度からは、県外肉牛産地から導入した繁殖肉用基礎雌牛（黒毛和種）を基に、生産された産子を県内の肉用牛農家に譲渡し、肉用牛生産振興を図っている。

また、平成27年度から、当該における和牛子牛の生産力を強化し、県内肉用牛農家等へ和牛子牛を安定的に供給することで和牛生産基盤の強化を図ることを目的に、「埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業」を開始した。

(1) 受託育成牛

新規受託育成牛130頭、前年度からの継続受託育成牛（周年牛）121頭、計251頭を受託育成した。

(2) 県有牛育成事業（ホスタイン種）

30年度は、県有牛として2頭導入した。

(3) 優良肉用基礎牛（黒毛和種）

宮崎県産導入牛8頭（20年度5頭、27年度3頭）および当該生産牛21頭、計29頭を飼養し16頭が分娩した。肥育素牛及び繁殖雌牛として16頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。

(4) 埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業

当該生産黒毛和種胚を移植、受胎した受託牛の産子を2～3日齢で買上げ、育成し、県内の肉用牛農家に譲渡している。平成30年度は45頭を買上げ（平均買取価格350,000円）、肥育素牛及び繁殖雌牛として40頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。

また、更なる黒毛和種優良牛増産を図るため、日本短角種の経産牛（受胎牛）を独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場より2頭導入した。

(5) 人工授精及び胚移植

繁殖対象牛は、15か月齢、体高125cm、体重350kgを目安とし、被乗駕行動を主体に発情の発現状況を観察し、適期と思われる時期に人工授精、胚移植を行っている。

夏期放牧期間中は発情同期化（PGF₂α）処置を行い、集中的に人工授精を実施している。

(6) 受託牛の募集及び選定

受託牛の募集及び入牧牛の選定、入牧時検査等については各家畜保健衛生所の協力を得て実施した。

(7) 衛生管理

衛生対策プログラムに基づき定期的に衛生検査を実施し、ヒポプラズマ病、肺炎等の発生防止、治療等に努めた。

(8) 放牧

周年受託育成牛は4月から再放牧を開始した。新規受託育成牛は、4月下旬から各群2週間程度の馴致放牧を実施し、その後全放牧（昼夜放牧）とした。全放牧後は新規受託育成牛を先行させ、周年受託育成牛、県有黒毛和種が後追いする形態（先行後追い放牧）をとった。

2 家畜管理

(1) 家畜飼養頭数

受託牛の30年度月別飼養状況は下記のとおりである。(月末頭数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度牛	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28年度牛	22	18	18	15	9	6	5	3	1	1	1	1	1
29年度牛	93	91	89	85	83	69	59	54	46	41	35	29	
30年度牛	11	33	39	46	60	74	81	85	95	95	99	115	
月間延頭数	3,812	4,060	4,406	4,564	4,713	4,479	4,572	4,360	4,426	4,319	3,806	4,268	51,785

※県有牛(ホルスタイン)は除外

(2) 譲渡成績

ア ホルスタイン種

平成30年度は譲渡していない。

イ 黒毛和種

譲渡月齢は概ね9か月齢である。繁殖用黒毛和種が分娩した産子のうち、雄(去勢)及び雌を肥育素牛として14頭、繁殖素牛として2頭、合計16頭を譲渡した。

また、埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業では、肥育素牛として26頭、繁殖雌牛として14頭、合計40頭を譲渡した。

個体別の系統、譲渡価格等は表2-2のとおりである。

(表区分の新規は埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業)

表2-2 県有黒毛和種譲渡牛一覧

No.	新規	名号	性別	区分	生年月日	父	2代祖	3代祖	譲渡日	譲渡価格
1	○	新高牧52	雄	肥育	H29.6.24	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.4.25	¥699,930
2	○	新高牧53	雄	肥育	H29.6.26	平茂勝	美穂国	福之国	H30.4.25	¥684,040
3	○	しんちちぶ44	雌	肥育	H29.6.27	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.4.25	¥551,058
4		埼玉高牧274	雄	肥育	H29.7.5	百合白清2	美穂国	福桜(宮崎)	H30.4.25	¥658,677
5	○	しんちちぶ45	雌	肥育	H29.7.12	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.4.25	¥494,869
6	○	新高牧54	雄	肥育	H29.7.22	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.4.25	¥550,583
7	○	新高牧55	雄	肥育	H29.7.26	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.4.25	¥617,622
8	○	新高牧56	雄	肥育	H29.7.27	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.4.25	¥550,053
9	○	新高牧57	雄	肥育	H29.7.29	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.4.25	¥604,257
10		埼玉高牧275	雄	肥育	H29.8.2	幸紀雄	福之国	福桜(宮崎)	H30.5.25	¥605,256
11	○	新高牧58	雄	肥育	H29.8.7	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.5.25	¥578,695
12	○	新高牧59	雄	肥育	H29.8.8	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.5.25	¥588,892
13		埼玉高牧276	雄	肥育	H29.8.18	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.5.25	¥649,856
14	○	しんちちぶ46	雌	肥育	H29.8.19	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.5.25	¥556,316
15		たかちちぶ219	雌	繁殖	H29.8.29	幸紀雄	安平	平茂勝	H30.5.25	¥470,761
16		埼玉高牧277	雄	肥育	H29.8.30	美津照重	勝平正	福之国	H30.5.25	¥635,676
17	○	新高牧61	雄	肥育	H29.8.30	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.5.25	¥599,431
18	○	しんちちぶ47	雌	繁殖	H29.9.14	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.6.22	¥427,030
19		たかちちぶ220	雌	肥育	H29.10.7	本富士	糸福(鹿児島)	紋次郎	H30.7.25	¥432,164
20	○	しんちちぶ48	雌	繁殖	H29.10.13	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.7.25	¥460,359
21	○	新高牧62	雄	肥育	H29.10.15	百合茂	福之国	福桜(宮崎)	H30.7.25	¥596,028
22	○	新高牧63	雄	肥育	H29.10.20	芳之国	平茂勝	紋次郎	H30.7.25	¥617,915
23	○	しんちちぶ49	雌	肥育	H29.10.27	芳之国	平茂勝	紋次郎	H30.7.25	¥410,665
24	○	しんちちぶ50	雌	繁殖	H29.11.6	隆之国	福桜	福之国	H30.8.22	¥490,956
25		埼玉高牧278	雄	肥育	H29.11.9	花国安福	平茂勝	紋次郎	H30.8.22	¥617,907
26	○	新高牧64	雄	肥育	H29.11.12	安福久	忠富士	福之国	H30.8.30	¥557,916
27		埼玉高牧279	雄	肥育	H29.11.15	光平照	福桜(宮崎)	福之国	H30.8.30	¥542,773
28	○	新高牧65	雄	肥育	H29.11.18	安福久	忠富士	福之国	H30.8.22	¥594,411
29	○	しんちちぶ51	雌	繁殖	H29.11.30	百合茂	安福久	忠富士	H30.8.22	¥466,460
30	○	しんちちぶ52	雌	繁殖	H29.12.9	安福久	忠富士	福之国	H30.9.28	¥516,292
31		たかちちぶ221	雌	繁殖	H29.12.11	美津福	忠富士	福之国	H30.9.28	¥425,017
32	○	新高牧66	雄	肥育	H29.12.30	安福久	忠富士	福之国	H30.9.28	¥561,217
33	○	新高牧67	雄	肥育	H30.1.11	百合茂	福之国	安平	H30.10.26	¥459,138
34		埼玉高牧280	雄	肥育	H30.1.27	諒太郎	美穂国	福桜(宮崎)	H30.10.26	¥669,045
35		埼玉高牧281	雄	肥育	H30.2.7	利根乃勝忠	福之国	安平	H30.11.30	¥553,731
36	○	新高牧68	雄	肥育	H30.2.9	百合茂	安福久	忠富士	H30.11.30	¥615,794
37	○	新高牧69	雄	肥育	H30.2.20	百合茂	安福久	忠富士	H30.11.30	¥564,571
38	○	しんちちぶ53	雌	繁殖	H30.2.22	百合茂	安福久	忠富士	H30.11.30	¥557,293
39	○	しんちちぶ54	雌	繁殖	H30.3.11	百合茂	安福久	忠富士	H30.12.18	¥585,706
40	○	しんちちぶ55	雌	繁殖	H30.3.15	美国桜	平茂勝	福之国	H30.12.18	¥520,794
41		たかちちぶ222	雌	肥育	H30.3.16	光平照	隆之国	忠富士	H30.12.18	¥510,413
42	○	しんちちぶ56	雌	繁殖	H30.3.23	百合茂	安福久	忠富士	H31.1.25	¥97,434
43	○	しんちちぶ57	雌	繁殖	H30.4.6	美国桜	平茂勝	福之国	H31.1.25	¥561,631
44	○	新高牧70	雄	肥育	H30.4.10	花国安福	安福久	忠富士	H31.1.25	¥638,578
45	○	新高牧71	雄	肥育	H30.4.26	北国7の8	忠富士	安平	H31.1.25	¥493,980
46	○	新高牧72	雄	肥育	H30.4.29	花国安福	安福久	忠富士	H31.1.25	¥546,546
47	○	新高牧73	雄	肥育	H30.5.7	花国安福	安福久	忠富士	H31.2.20	¥622,877
48	○	新高牧74	雄	肥育	H30.5.14	北国7の8	忠富士	安平	H31.2.20	¥519,984
49		埼玉高牧282	雄	肥育	H30.5.17	美津照重	平茂勝	福之国	H31.2.20	¥533,964
50	○	しんちちぶ58	雌	繁殖	H30.5.22	美国桜	忠富士	安平	H31.2.20	¥521,419
51	○	しんちちぶ59	雌	繁殖	H30.5.28	北国7の8	忠富士	安平	H31.2.20	¥450,206
52	○	しんちちぶ60	雌	繁殖	H30.6.1	北国7の8	忠富士	安平	H31.3.22	¥441,036
53		たかちちぶ224	雌	肥育	H30.6.2	北国7の8	忠富士	安平	H31.3.22	¥363,868
54	○	しんちちぶ61	雌	繁殖	H30.6.4	北国7の8	忠富士	安平	H31.3.22	¥506,317
55		埼玉高牧283	雄	肥育	H30.6.9	隆之国	安福久	忠富士	H31.3.22	¥680,185
56		埼玉高牧284	雄	肥育	H30.6.15	北国7の8	忠富士	安平	H31.3.22	¥569,328

(3) 受託牛入牧状況

入牧状況は表3のとおり、随時入牧を行い、延べ62戸の農家から合計130頭の牛を受託した。

表3 平成30年度 受託牛入牧状況

	入牧回数	市町村数	戸数(延べ)	頭数
4月	4	4	5	11
5月	6	9	11	22
6月	3	4	4	7
7月	2	2	2	7
8月	6	5	6	14
9月	5	7	7	15
10月	2	4	4	8
11月	2	2	2	4
12月	5	7	9	14
1月	0	0	0	0
2月	3	4	4	9
3月	6	8	8	19
	44	56	62	130

(4) 発育成績

発育状況を把握するため、入牧時より放牧期1回、舎飼期1回体重を測定した。30年度牛の随時入牧時平均月齢は、9.9ヶ月であり、随時入牧牛の体重平均は278.9kgであった。

入牧牛の12月までの日増体重は513.6g、平均体重333.7kgであった。

入牧後の昼夜放牧による環境の変化、急傾斜の放牧地での運動量の増加、濃厚飼料・貯蔵飼料から生草飼料に切り替わることによる消化管内の微生物叢の変化、群生活によるストレスなどが発育に影響を及ぼす要因となっている。

表4 受託牛体格測定値(定期)

	測定年月	頭数	体高(cm)	胸囲(cm)	体重(kg)	平均日増体重(g)
入牧時	H30年度	130	120.9	152.3	278.9	
放牧期	30.8	40	—	—	323.0	645.1
舎飼期	31.3	93	—	—	386.4	790.4

* 随時入牧時平均月令:9.9カ月

* 体格測定牛は入牧後2ヵ月以上の牛を選抜した

(5) 繁殖成績

ア ホルスタイン種(受託育成牛と県有牛を含む)

月齢15カ月、体重350kg以上、体高125cmを目安に人工授精及び胚移植を開始した。5月から10月までを夏期とし、発情の同期化処置を行った。

同期化処置は、PGF2 α 、CIDR等を用い、牛舎収容期間の短縮と作業の省力化を図っている。

冬期は、牛舎収容後に主に自然発情により随時実施した。

表5 平成30年度繁殖状況

	授精頭数	授精延べ頭数	受胎頭数	受胎率	精液使用本数
28年度受託牛	1	1	1	100%	1
29年度受託牛	32	52	32	100%	1.63
30年度受託牛	25	36	22	88.0%	1.44
合計	58	89	55	94.8%	1.53

* 受精卵移植により受胎した頭数、人工授精未実施頭数は含まれない。

表6 受託牛胚移植成績

頭数：%

年度	新鮮胚			凍結胚			合計		
	移植	受胎	受胎率	移植	受胎	受胎率	移植	受胎	受胎率
29	6	2	33.3	104	62	59.6	110	64	58.2
30	5	2	40.0	119	58	48.7	124	60	48.4

※外部導入胚を含む

イ 県有和牛(繁殖雌牛)

黒毛和種は宮崎県からの導入牛8頭、当场産21頭、日本短角種は導入牛5頭の計34頭を繁殖に供した。また、優良繁殖素牛の確保と「埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業」推進のため、宮崎県産導入牛を中心とした繁殖雌牛の採胚と胚移植を行った。また、受胎牛に日本短角種の経産牛2頭を導入した。

表7 県有繁殖和牛繁殖成績

区分	飼養 頭数	繁殖 供用	繁殖 頭数	分娩 頭数	生産牛		死産 頭数
					雄	雌	
黒毛和種導入	8	8	8	6	3	2	1
黒毛和種場産	22	21	21	11	7	4	0
日本短角種	7	5	5	0	0	0	0
合計	37	34	34	17	10	6	1

表8 採胚成績

管理 番号	産歴	採胚月日	交配種雄牛	回収 胚数	移植可 能胚数	胚処理	
						新鮮	凍結
36	6	平成30年4月26日	安平照	11	5	1	4
37	6	平成30年5月24日	安福久	20	15	0	15
291	9	平成30年6月8日	花国安福	19	4	0	4
34	6	平成30年7月13日	諒太郎	19	16	1	15
41	2	平成30年7月24日	諒太郎	18	9	0	9
38	5	平成30年9月19日	美国桜	36	24	1	23
475	4	平成30年11月22日	百合茂	10	5	1	4
426	8	平成31年1月31日	福之姫	19	18	0	18
467	4	平成31年2月7日	美津照重	32	20	1	19
合計				184	116	5	111
平均	5.5			20.4	12.9		

表9 胚移植成績（県有黒毛和種：繁殖雌牛）

	移植頭数	受胎頭数	受胎率%
新鮮	0		
凍結	24	8	33.3
合計	24	8	33.3

※外部導入胚を含む

(6) 衛生関係

ア 衛生対策

表10のとおり県内家畜保健衛生所の協力を得て実施。

ピロプラズマ病対策については、特にその発生防止に努めている。

表10 衛生対策

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	備考	
A群	4月中旬再放牧							舎飼				
飼養体系 B群	舎飼		馴致	全放牧+夏期授精				舎飼				
	6月中旬 6月下旬											
C群	舎飼	馴致	全放牧					舎飼				
	5月中旬 5月下旬											
衛生対策												
BC群衛生検査		◇◇	◆◆◆	◆◇	◆◇	◆◇	◆◇	◆◇	◇◇	◇◇		◆応援検査 ◇自主検査 血液検査 (Ht、寄生度)
A群衛生検査		◇	◇◆	◆◆◆	◇	◆◆◆	◆◆◆	◇◇	◆◆◆	◇◆◆	◇◇	
ダニ駆除	・・・・・・・・各群 2週間隔・・・・・・・・											フルメトリン製剤塗布
寄生虫症対策	▽ 入牧時及び放牧終了後、全頭に投与							▽				イベルメクチン製剤投与
下痢症対策	▽							▽				生菌剤 各群3日間50g
キャトルバクト(マンヘイミヤ+パヌツレラ+ヘモフィルス)接種	入牧から1週間後及び5週間後に接種											
アカバネ病ワクチン接種	← 個別入牧に応じて随時実施 → 蚊の発生時期に合わせて接種											

入牧前検査（結核病・ブルセラ病・ヨ-ネ病・牛白血病・サルモネラ症の検査）及び牛呼吸器病5種混合ワクチンの接種

イ 疾病発生状況

表 12 (延べ頭数)

平成30年度	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
消化器系疾患	1		1		2			1		1	1	1	6
蹄部疾患			1	4	10	4	5	1				1	26
眼疾患**		6	4				32	33					75
低ヘマトクリット			5	8	6	25	4	21	25				94
皮膚真菌症*	12	5								3	5		25
パピローマ*	2	10	5	1	17	3	3		1	1	5	1	49
呼吸器系疾患				1									1
その他**		1			1								2

* 角結膜炎等

※ 印の疾病は同一牛で再発生するため、正確な発生数は把握できない。

※※ 除角後化膿、臍ヘルニア等

ウ 死亡・廃用状況

表 13

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
廃用													0
死亡					1								1

第3章 草地管理事業

1 概要

4月から9月に越冬用貯蔵飼料の生産調製作業を行い、その他年間を通して家畜管理作業及び採草地・放牧地の維持管理作業を実施した。

1番草は天候良好で作業は順調だったが、2・3番草については秋口の天候不順のため収量が下がった、全般に予乾充分で良質な越冬飼料が生産できた。

対前年比は生草収量 101.7%、ロールの個数 106.6%であった。

(1) 採草地

越冬用貯蔵飼料の調製は、ロールベールのラップサイレージを主体に調製し、その生産量は、生草換算量で約 74.6 t であった。

本年度も引き続き乳酸菌の添加処理及びカッティングベールを行い、嗜好性の高いより安定した良質のラップサイレージの生産に努めた。

(2) 放牧地

放牧地は、造成後 40 年以上経過した傾斜地が主で、石礫混じりの火山灰土壌、牧養力低く雑草や灌木の侵入が著しい。

管理作業は人力作業が主だが、機械作業が可能な牧区は、効率的な管理作業を行い草勢の維持を図った。

(3) その他

ア 関係施設や車両・作業機の点検・整備し、安全かつ安定した作業が実施できるように努めた。

イ 一般県民を対象に、ふれあい牧場機能向上のため、「花にあふれる牧場づくり」の一環として一部採草地に観賞用のポピー種子の播種を実施した。

ウ 完熟堆肥を生産し、一般県民に無料配布し堆肥の有効活用を実施した。

2 草地管理

表1 草地管理事業実施結果

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
施肥	化成石灰	→	→									→	→
堆肥	散布(採草地)							→	→	→	→	→	→
	切り返し	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	一般配布	→			→			→					→
粗飼料	準備	→	→	→		→							
収穫・調整	作業		→	→	→	→	→	→					
草地整備・更新								→	→			→	→
石礫除去									→	→			
不良雑草防	→	→		→	→	→			→				→
掃除刈り・雑灌木除去	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
車両・作業機点検整備	→	→	→	→		→		→			→	→	→
放牧利用	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
幹線及び管理道整備			→	→		→	→	→		→			
牧場内美化作業	コスモス			→	→			→	→				
	ポピー		→	→			→						
安全対策	看板整備	→	→						→	→			
	除雪・融雪											→	
桜植栽地除草作業				→				→					

貯蔵粗飼料の生産調製は、ロールベールによるラップサイレージを実施した。

(1) 生産量

1・2番草の収穫作業は天候不順によりヘレージ作業が延長した、それにより3番草も遅れ気味に推移した。

1) 1番草

処理期間 5月2日～6月26日、収穫面積 21.4ha、生草換算量 319t、249梱包のラップサイレージを生産した。

2) 2番草

処理期間 6月28日～8月21日、収穫面積 17.18ha、生草換算量 178t、164梱包のラップサイレージを生産した。

3) 3番草

処理期間 8月10日～9月14日、収穫面積 18.15ha、生草換算 232t、180梱包のラップサイレージを生産した。

4) 4番草

処理期間 9月26日、収穫面積 3.00ha、生草換算 18t、16梱包のラップサイレージを生産した。

牧区	面積	1番草			2番草			3番草			4番草			合計			備考
		収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/11a	梱包	収量	Kg/10a	梱包	
1-B	3.00	22,500	750	30	13,200	440	22	38,350	1,278	59	8,800	293	16	82,850	2,762	127	
1-C	5.18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2-A	3.30	45,500	1,379	70	8,250	250	15	21,450	650	33	0	0	0	75,200	2,279	118	
2-1	1.60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2-4	1.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	その他使用
3-A	3.00	28,000	933	40	18,700	623	34	50,700	1,690	78	0	0	0	97,400	3,247	152	
3-A'	1.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3-B	1.50	7,200	480	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,200	480	12	全放牧
3-2	1.00	10,200	1,020	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,200	1,020	17	全放牧
5-A・B	5.40	32,450	601	59	43,750	810	83	0	0	0	0	0	0	76,200	1,411	142	
5-C	1.05	7,800	743	12	5,000	476	10	0	0	0	0	0	0	12,800	1,219	22	兼用
5-D	1.43	5,850	409	9	0	0	0	5,500	385	10	0	0	0	11,350	794	19	兼用
5-E	0.75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	全放牧
計	29.71	159,500	810	249	88,900	564	164	116,000	1,081	180	8,800	293	16	373,200	1,896	609	
処理期間																	

(2) 施肥

前年度3月に高度化成肥料を散布した。

堆肥散布は、一部の採草地に11月から2月に実施した。

表3 採草地施肥量

牧区	項目 面積	元 肥 第1回追肥 第2回追肥 第3回追肥					備考
		高度化成	高度化成	高度化成	高度化成	高度化成	
1-B	3.00	2,000		0	2,000	667	
1-C	5.18	1,000		0	1,000	193	堆肥散布
小計	8.18	3,000	0	0	3,000	367	
2-A	3.30	1,500		0	1,500	455	堆肥散布
小計	3.30	1,500	0	0	1,500	455	
3-A	3.00	1,500		0	1,500	500	堆肥散布
小計	3.00	1,500	0	0	1,500	500	
5-A,B	5.40	3,000		0	3,000	556	
5-C	1.05	500		0	500	476	
5-D	1.43	500		0	500	350	
小計	7.88	4,000	0	0	4,000	508	
合計	22.36	10,000	0	0	10,000	447	

高度複合化成=N-P-K:14-14-14%

3 草地更新及び飼料作物作付け

更新作業は、グレートプレインによる不耕起型簡易更新を実施した。

更新は牧草収穫後の再生不良の牧区の自力更新採草地の一部に「花にあふれる牧場づくり」の一環として、ポピー種子の播種を実施した。

表4 草地更新及び草地改良実績

牧 区 名	1-C	2-A	5-A, B	5-C	5-D
作 業 区 分	更新	更新	更新	更新	更新
利 用 区 分	観賞	採草	採草	採草	採草
更 新 ・ 作 付 面 積	3.5ha	3.3ha	5.4ha	1.1ha	1.3ha
実 施 期 間 始 至	10月6日 10月8日	10月27日 10月28日	10月29日 11月2日	11月4日 11月5日	10月25日 10月26日
期 間 内 作 業 日 数	3.0日	2.0日	3.0日	2.0日	2.0日
雑 草 防 除	-	-			
石 れ き 除 去	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人	1.0人
耕 起 及 び 整 地	ロータリプラウ	ロータリプラウ	簡易更新機	ロータリプラウ	ロータリプラウ
播 種 作 業	—	2.0人	2.0人	2.0人	1.0人
覆 土 ・ 鎮 圧	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人
草 種 構 成 及 び 播 種 量	ポピー	※1	※1	※1	※1

※1 オーチャード2 イタリアン2 ペレニアル(10a/kg)
 ※2 オーチャード2 トールフェスク0.5 ペレニアル(10a/kg)
 ※3 オーチャード2 トールフェスク0.5 ペレニアル(10a/kg)

第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況

1 概要

「彩の国ふれあい牧場」は、県民の畜産業への理解を深めるための施設として平成9年度に開場した。本県畜産に関する資料の展示や乳製品作りなどの体験学習、山羊や羊などとのふれあい等を県民に提供している。

2 ふれあい動物の管理

山羊（ヤクシマヤギ）と緬羊（コリデール）、ウサギを飼養している。イベント時に実施するふれあい動物へのエサやりは子供たちに大人気である。

3 花にあふれる牧場づくり

近年、牧場周辺のポピー、アジサイ、スイセン、コスモス、マリーゴールドなどを展望広場の花壇等で栽培に取り組んでいる。

※「天空のポピー2018」（5/19～6/8の計21日間）

地域の市町村（皆野町、東秩父村）との協働で開催した「天空のポピー2018」は、約68,000人の来場者が訪れた。

4 モーモーハウスの入館者数

月	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
4	6,599	5,518	5,657	6,264	6,542	7,961
5	19,702	18,666	22,190	23,697	16,726	18,056
6	7,435	4,887	4,996	6,273	7,067	12,560
7	5,510	4,726	4,278	5,567	4,463	4,654
8	9,782	8,433	8,198	6,749	6,212	9,333
9	5,247	7,404	7,395	3,590	4,750	5,853
10	5,034	4,634	5,080	5,109	3,184	5,229
11	5,163	6,053	4,464	4,265	4,330	5,950
12	1,357	1,185	1,538	1,849	1,488	1,954
1	956	1,211	938	1,092	0	1,310
2	257	1,064	1,341	1,554	0	1,420
3	1,489	2,728	3,389	3,570	403	4,509
計	68,531	66,509	69,464	69,579	55,165	78,789
					対前年比	142.8%

5 彩の国ふれあい牧場への入り込み客数

月	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
4	35,162	25,276	26,046	26,253	27,414	31,193
5	100,092	91,943	127,015	130,903	90,276	120,320
6	48,876	32,626	32,966	38,318	41,247	79,742
7	35,552	24,021	24,668	39,001	28,032	38,426
8	61,005	53,119	53,972	42,901	34,774	50,412
9	28,267	41,161	48,741	21,441	22,534	23,274
10	28,441	30,812	37,297	27,389	20,506	27,494
11	34,132	34,645	30,084	28,971	29,599	34,069
12	12,278	9,979	11,885	13,441	11,384	15,001
1	5,855	6,136	7,480	9,055	0	12,292
2	1,916	8,372	9,566	13,130	0	8,755
3	10,172	16,051	15,771	25,582	0	27,799
計	401,748	374,141	425,491	416,385	305,766	468,777
					対前年比	153.3%

年度	人数(人)	対前年比 (%)
7年度	88,844	128.7
8年度	106,463	119.8
9年度	136,158	127.9
10年度	152,551	112.0
11年度	142,685	93.5
12年度	159,035	111.5
13年度	175,292	110.2
14年度	197,954	112.9
15年度	241,510	122.0
16年度	237,281	98.2
17年度	363,092	153.0
18年度	361,279	99.5
19年度	415,505	115.0
20年度	397,827	95.7
21年度	409,322	102.9
22年度	481,922	117.7
23年度	339,560	70.5
24年度	400,058	117.8
25年度	401,748	100.4
26年度	374,141	93.1
27年度	425,491	113.7
28年度	416,385	97.9
29年度	305,766	73.4
30年度	468,778	153.3

6 牛乳を利用した体験実習等実績

表4 年度別体験実習受入実績

年度	人数(人)	個人(人)	団体(人)
12年度	2,952	2,721	231
13年度	3,625	3,215	410
14年度	4,123	3,452	671
15年度	4,847	3,904	943
16年度	4,180	3,157	1,023
17年度	4,342	3,524	818
18年度	4,669	3,389	1,280
19年度	5,812	4,854	958
20年度	6,404	5,761	643
21年度	6,733	5,932	801
22年度	6,194	5,329	865
23年度	5,434	5,088	346
24年度	6,065	5,636	429
25年度	7,096	6,633	463
26年度	6,496	6,309	187
27年度	7,260	6,524	736
28年度	7,042	6,267	775
29年度	5,638	5,214	424
30年度	7,073	6,253	820

土日祝を中心に、手作り体験学習（バター・チーズ・アイスクリーム等）を実施した。

7 イベントの開催

表5 イベントの開催状況

イベント（実施月日）	内容
G. Wイベント (5/3, 4, 5)	【体験】 手作りバター、ヤギ・ヒツジ・ウサギへのエサやり、牛・ウサギのおめんづくり、まきばクイズ 【実演】 羊の毛刈り、音楽による牛群の呼び寄せ
天空のポピー2017 (5/13～6/9)	【販売】 地元（皆野町、東秩父村）農産物、県内畜産物の販売 【体験】 手作りバター
秋の牧場まつり (10/7, 8, 9)	【体験】 まきばクイズ、工作教室、羊毛糸紡ぎチャレンジ ヤギ・ウサギへのエサやり、牧場でお絵かき ミルク082ライブとバターづくり
県民の日イベント (11/14)	【体験】 手作りバター、工作教室 ヤギ・ヒツジ・ウサギへのエサやり、まきばクイズ

第5章 公共事業実施状況

1 概要

第1次基盤整備事業（S52～57）、第2次整備（S63～H元）、機能強化事業（H2～8）、団体営公共牧場整備事業（H9～12）、畜産環境総合整備事業（H20～24）により、牧場機能を整備してきたが、よりいっそうの充実を図るため、機能強化緊急対策事業を平成23年度から実施している。

2 実績（平成23年度から平成30年度）及び計画（平成31年度から平成33年度）

年 度	工 事 名
23年度	第1・第2・第4牛舎屋根・壁等改修、第3牛舎スタンション取り付け モーモーハウス屋根改修工事
24年度	和牛繁殖牛舎屋根・壁等改修工事、地下燃料タンク改修
25年度	農具庫屋根・壁等改修、和牛育成牛舎屋根・壁等改修
26年度	第5牛舎改修及び外餌場新設工事 サイロ1・2改修工事 汚水排水溝改修工事
27年度	第1～4牛舎間給餌施設 第4牛舎外給餌施設屋根・餌槽改修工事
28年度	なし
29年度	雨水排水溝工事、ふれあい牧場展望広場バリアフリー工事
30年度	牛舎給水施設改修工事
31年度	揚水場施設改修工事
32年度	畜舎汚水浄化施設改修工事
33年度	放牧地給水施設改修工事